

## 福澤記念館企画展 「学問のすゝめ」のヒミツ～郷里中津と小幡篤次郎～

第18回全国障害者芸術、文化祭 おおいた大会の応援事業として、中津市に於いて10月6日～11月25日に開催されている企画展を見てきました。

2016年に風月会有志の方々に福澤記念館を訪れたことが、きっかけで研究員の荒木氏より、慶応義塾福澤研究センター西澤直子教授によるギャラリー・トーク聴講のお誘いを頂きました。残念だったのは、当日、慶応同窓会で上京中のため中津を離れていました。後日、記念館に伺って、福澤諭吉旧居入り口に、興味を掻き立てられるポスターに目がとまりました。とくに、「学問のすゝめ」の装丁をバックに「ヒミツ」の文字がとても印象的です。事務局長、吉田氏にご挨拶し、2階に行くと、展示室は郷土史を考えるグループや観光客で賑わっていました。展示は7つのケースに焦点を当て、説明が始まります。

はじめに、「学問のすゝめ」初版本のオリジナルが中津市医科資料館で見つかり、オリジナル本が展示されています。手のひらサイズの本は学生の懐や袂に入り、いつでも、どこでも読みやすい学問の本となりました。ページをめくると、福澤諭吉、小幡篤次郎同著とあります。小幡篤次郎が書いたのか疑問が深まります。草稿、書簡などの資料から、執筆は福澤先生で小幡は何らかの形で関わっていたそうです。直執の書簡の展示もあり、歴史好きには興味深いです。そして、小幡篤次郎の人物像に焦点を当て、福澤先生の助手として、新しい時代の教師としての姿やエピソードについて紹介されています。先生が有能な助手を探しており、「小幡を騙して誘拐したようなもの」とありました。（※1）

「学問のすゝめ」は明治5年中津での洋学校開校に合わせ、初版本が出されます。その後、明治9年までに、17編が出版され、ベストセラーになった当時の様子にも触れられています。このころは、印刷方法の発達により、偽版、類似本が横行し、先生は偽本の横行は文明の振興の妨げになると考え、時に訴訟を起こし著作権確立に尽力されます。明治維新を成し遂げた人物、福澤先生と慶応義塾に関係する展示もあります。

ご厚意により研究員の荒木氏の説明もあり、興味深く、楽しく閲覧させて頂きました。当時を肌で感じとり、さらに想像を膨らませながら、心地よい気分で中津の城下町をそぞろ歩きました。会員の皆さま、記念館を訪れてはいかがでしょうか。

渡邊郁美

※1 福澤記念館企画展資料から一部抜粋



## 『学問のすゝめ』のヒミツ

### ～郷里中津と小幡篤次郎～

明治41(1908)年、福澤諭吉の著書『西洋事情』の翻訳『西洋事情』の出版に、中津の郷里で生まれ育った小幡篤次郎が関わった。『西洋事情』の出版は、日本人の海外見聞を広げ、西洋文化の理解を促した。『西洋事情』の出版は、日本人の海外見聞を広げ、西洋文化の理解を促した。『西洋事情』の出版は、日本人の海外見聞を広げ、西洋文化の理解を促した。

小幡篤次郎

『西洋事情』

『西洋事情』

『西洋事情』

～関連イベント～

10月6日(日) 10:00～17:00  
11月25日(日) 10:00～17:00

～アクセス～

福澤諭吉記念館	〒519-0201 福井県福井市福井
福澤諭吉記念館	〒519-0201 福井県福井市福井